

道 德

(16) 道徳

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 生徒の発達段階や特性等に応じた見方・考え方を働かせながら、学習の問題を追究・解決する学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 言語能力や論理的思考力の育成につなげる言語活動を充実させるための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して、情報の収集やまとめなどを行うための工夫 また、情報モラルに関する学習をするための工夫 (4) 学習してきた中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができる工夫 (5) 道徳的行為に関する体験的な学習を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を重視するための工夫 (6) 生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を促すための工夫 (7) 各教科、総合的な学習の時間および特別活動や小学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等
3 その他	今日の課題への配慮や工夫

道 徳

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について 生徒が道徳的価値の自覚や自己の生き方について深められるよう、35 教材に加え、4 教材を付録に置き、補充、深化の役割が果たせる構成とされている。また、巻末には「福祉・ボランティア」等各教材を6つのテーマで分類するページを設け、生徒が学習したことを整理できるよう工夫されている。 〔例〕2年（巻頭、P200）</p> <p>●着眼点(2)について 巻頭に「道徳科とは」が設けられ、話し合い活動が活発になるよう工夫されている。また、「心情円」というツールを使うことで、自分の気持ちが伝えやすくなるよう工夫されている。 〔例〕2年（P4、巻末）</p> <p>●着眼点(3)について ・コンピュータの効果的な使い方を身につけるとともに、情報活用能力を育むことができるよう、情報活用サイトにアクセスできる二次元コードが配置されている。 ・各学年に情報モラルに関する教材を配置し、生徒の身近でよく起こる SNS 上のトラブル等を取り上げ、情報モラルの観点から道徳的価値について考えることができるよう工夫されている。 〔例〕1年（P40～44）</p>	<p>●着眼点(4)について ポートフォリオとして学期や学年単位で学習を振り返ることができるよう「つぶやき」が設置されており、考えたりに思ったりしたことを書き込めるよう工夫されている。また、巻末に学期ごとに、生徒が学習を振り返って記入するシートがあり、自分の学びを振り返ることができるよう工夫されている。 〔例〕2年（P10、巻末）</p> <p>●着眼点(5)について 家庭や地域社会を扱った教材が配置されていたり、都道府県の伝統・文化などが紹介されていたりすることで、家庭や地域社会との連携が図れるよう工夫されている。 〔例〕1年（P99～101、P162～166）</p> <p>●着眼点(6)について 学校を舞台とした教材が多く、生徒が道徳的問題を自分のこととして考え、自主的・自発的に学習できるよう工夫されている。 〔例〕3年（P36～40、P81～85）</p> <p>●着眼点(7)について 他教科等と関連する教材が配置されており、デジタルコンテンツで関連する教科の紙面を確認することができるよう工夫されている。 〔例〕2年（P19）</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点(1)について 各教材の冒頭には「導入」の文章を設け、学習のねらいを明確にして学習に入ることができるよう工夫されており、教材の末尾に設けられた「学びの道しるべ」では、生徒に考えをもたせ、対話を促すよう発問が工夫されている。 〔例〕1年(P64～67)</p> <p>●着眼点(2)について さまざまな角度から物事を考えたり、自分の考えをもとに話し合い、交流したりできるよう、発問や教材が工夫されている。 〔例〕2年(P114～119)</p> <p>●着眼点(3)について ・学習に役立つ情報が掲載されている「まなびリンク」にアクセスできる二次元コードが配置されている。 ・生徒の発達段階に合った具体的な生活場面から情報モラルについて考える教材が掲載されており、情報機器を通したよりよい人間関係について主体的に話し合うことができるよう工夫されている。また、「情報モラル」についてコラムが設けられており、情報モラルについてより深く考えることができるよう工夫されている。 〔例〕2年(P66～71)</p>	<p>●着眼点(4)について 巻末に、「道徳科の学びを振り返ろう」が設定されており、自分自身の変化や成長を感じたり、これからの課題や目標を見つけ、自分自身を高めていこうとする意欲を培ったりしながら学習できるよう工夫されている。 〔例〕3年(巻末)</p> <p>●着眼点(5)について 各学年で「家族と自分との関わり」、「地域と自分との関わり」について考える教材が複数掲載されており、家族や地域社会の一員として、その役割と責任の自覚を深めることができるよう工夫されている。 〔例〕1年(P42～47、P130～133)</p> <p>●着眼点(6)について 生徒が切実感等をもって考えられる教材が数多く掲載されている。また、発達段階に合わせた適切な教材が配置されている。 〔例〕2年(P8～11)、3年(P104～107)</p> <p>●着眼点(7)について 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要である「特別の教科 道徳」として、各教科や特別活動等との連携を図るため、実施学年や学習時期を考慮した教材配列となるよう工夫されている。 〔例〕3年(巻頭、P98～103、P154～159)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
38 光村	<p>●着眼点(1)について 学校生活の実態や生徒の成長にともなった教材で、多面的・多角的な見方や考え方ができるよう、問いの設定が工夫されている。 〔例〕1年 (P51～55)</p> <p>●着眼点(2)について 教材末のてびきには、問題を解決するために話し合うことを意図した発問が設定されている。また、ふりがなや絵、写真や挿絵を多く配することで、読みの負担を軽減し、生徒が多面的・多角的に考え、話し合うことが学習の中心になるよう配慮されている。 〔例〕2年 (P46～50)</p> <p>●着眼点(3)について ・教材に関する資料や動画などが掲載されているデジタルコンテンツにアクセスできるよう二次元コードが配置されている。 ・生徒の発達段階に合った具体的な生活場面から情報モラルについて考える教材が掲載されており、情報機器を通したよりよい人間関係について主体的に話し合うことができるよう工夫されている。また、情報モラルに関する教材には「まなびをプラス」というページが配され、生徒が教材で考えた道徳的価値をさらに深められるよう工夫されている。 〔例〕3年 (P91～93)</p>	<p>●着眼点(4)について 各学年の最終教材に「一年間の学びを振り返ろう」、巻末には「まなびの記録」が設定されている。自分の学びを振り返り、自分の変化や成長を実感できるよう工夫されている。 〔例〕2年 (P170～173、巻末)</p> <p>●着眼点(5)について 家族について描かれた教材から、自分と家族について考えが深められるよう工夫されている。また、全学年の巻末付録には、日本各地の伝統文化等が紹介されており、自らの地域のよさを自主的に探究できるよう工夫されている。 〔例〕1年 (P91～96、P178、P179)</p> <p>●着眼点(6)について 発達段階と教材に合わせて、「あなたはどう思うか」「あなたならどうするか」という問いが設定されており、主体的に考えることができるよう工夫されている。 〔例〕3年 (P130～132)</p> <p>●着眼点(7)について 教材の終わりのてびきには、他教科で学習する内容との関連や、持続可能な開発目標 (SDGs) との関連等が示されている。また、「まなびをプラス」では道徳の学びが1時間で終わるのではなく、そこから深く考えたり行動につなげたりできるよう工夫されている。 〔例〕2年 (P101～104、P105～107)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
116 日文	<p>●着眼点(1)について 問題解決的な学習では、「気づく」「考える・議論する・深める」「見つめる・生かす」のステップで主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫されている。 〔例〕 3年 (P4～7、P72～77)</p> <p>●着眼点(2)について ノートやタブレット端末を活用した議論の方法や自分の考えを整理する方法などが「学びを深めるヒント」に示されており、言語活動が充実するよう工夫されている。 〔例〕 2年 (P69、P75)</p> <p>●着眼点(3)について ・教材に関わる動画や教材資料などを活用することができるデジタルコンテンツにアクセスできるよう、すべての教材に二次元コードが配置されている。 ・全学年で情報モラルに関わる教材やコラムが掲載され、情報社会の倫理や情報セキュリティ等に関わる内容について、「友情・信頼」等の複数の内容項目の教材から、総合的に学習できるよう工夫されている。 〔例〕 2年 (P 76～81)</p>	<p>●着眼点(4)について 別冊「道徳ノート」に自分の考え等を書くことで、道徳科の学びを積み重ね、振り返り、生徒自身が自らの成長を実感し、自分の生き方に自信や誇りがもてるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (別冊)</p> <p>●着眼点(5)について 全学年の巻末には、日本各地の伝統文化等が紹介されており、自らの地域のよさを自主的に探究できるよう工夫されている。また、別冊「道徳ノート」には、保護者に対して「道徳ノート」の目的が説明されており、家庭との連携が考慮されている。 〔例〕 1年 (巻末、別冊巻末)</p> <p>●着眼点(6)について 生徒が感動と共感をもてるような、身近な生活場面教材が多く配置されているため、興味・関心が高まり、学習意欲が喚起されるよう工夫されている。 〔例〕 2年 (P30～39、P64～69)</p> <p>●着眼点(7)について 多種多様なコラムが掲載されており、学習内容を補充・発展させ、他教科等との関連やこれからの実生活に生かすことができるよう工夫されている。また、巻末の内容項目別教材一覧には、各教材が関連する他教科等が示されている。 〔例〕 2年 (P106～109、巻末)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
224 学研	<p>●着眼点(1)について 「考え、議論する道徳」を実現するために、「深めよう」では、「考えを深める4つのステップ」として「見つけよう」、「考えよう」、「話し合おう」、「生き方につなげよう」に沿った授業の流れを設定し、深く考え議論できるよう工夫されている。 〔例〕1年(P45)</p> <p>●着眼点(2)について 読み物だけでなく、絵や写真、図やグラフなどが豊富で、生徒が自由に発想し、自ら感じ、考え、話し合いたくなるよう工夫がされている。また、「考えを深めるための4つのステップ」により、話し合い活動が活発になるよう発問等が工夫されている。 〔例〕2年(P92、P122～129)</p> <p>●着眼点(3)について ・動画や写真、関連サイトなどが掲載されたデジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが、教材のタイトル下部に配置されている。 ・情報モラルに関する教材が各学年に配置されており、SNSでのトラブル等身近なテーマを取り上げ、生徒が道徳教育の視点から情報モラルに関する様々な考えを持ち、深めることができるよう工夫されている。 〔例〕3年(P10～13)</p>	<p>●着眼点(4)について 巻頭に現代的な課題とともに自分自身を見つめることができるページを設け、学びの見通しを立てられるように工夫されている。また、巻末に1年間の学びを振り返るページが設けられており、1年間の自分の成長を感じて主体性や自尊感情を高めるとともに、これからの生き方を考えることができるよう工夫されている。 〔例〕1年(巻頭、巻末)</p> <p>●着眼点(5)について 家庭生活や日本の各地域と関わりのある教材が配置されており、学校・家庭・地域の相互の連携が深められるよう工夫されている。 〔例〕3年(P62～67、P72～79)</p> <p>●着眼点(6)について さまざまな分野で活躍する人、または先人たちに関係する教材など、生徒が興味・関心をもって学べるよう工夫されている。 〔例〕1年(P56～61)</p> <p>●着眼点(7)について 各教科等との連携を図った学習活動となるよう教材が設定されている。また、環境教育や防災教育等においても道徳的観点から考えが深められるよう工夫されている。 〔例〕2年(P164～167、P176～179)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
232 あか図	<p>●着眼点(1)について 「マイ・プラス」を設置し、学習の進め方を提示し、主体的・対話的な学習を通して、多面的・多角的な思考を促し、人間としての生き方についての考えを深めることができるよう工夫されている。 〔例〕 2年 (P44～47、P112～117)</p> <p>●着眼点(2)について 授業のねらいを明確にした発問構成となっており、教材を読んで考えるための視点を提示し、教材末では「自分を見つめて考える」「いろいろな見方で考える」「考えを深める」ための発問を設定し、多様な見方や考え方による対話的な学習ができるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P68～71)</p> <p>●着眼点(3)について ・教材に関する補助資料として、写真・動画・参考となる外部ページを閲覧することができるよう二次元コードが配置されている。 ・情報モラルについて考えることができる教材が全ての学年に掲載し、連続して配列するなど、学びを深める工夫がされている。 〔例〕 3年 (P50～59)</p>	<p>●着眼点(4)について 各学年の冒頭には授業開きとして「道徳 はじまりの時間」、巻末には「1年間の学習の記録」「学習の記録」を配置し、生徒が自分自身の学習を振り返って成長を実感したり、課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。 〔例〕 2年 (P6～11、巻末)</p> <p>●着眼点(5) 家族との関わりや家庭での出来事を描いた教材、地域の文化等を題材とした教材が数多く掲載されており、家庭や地域社会との積極的な関わりを促すよう工夫されている。また、裏表紙の「保護者の皆様へ」には、子どもの心の成長に関する家庭との連携について記載されている。 〔例〕 1年 (P122～127、P162～167)</p> <p>●着眼点(6)について 人間のよさ、気高さやすばらしさを感じることができる教材が設定されており、生徒が今までの体験と照らしあわせながら興味・関心をもって学習できるよう工夫されている。 〔例〕 3年 (P92～97)</p> <p>●着眼点(7)について 各教科や他の教育活動との関連を図って学習することができるよう教材が選定されており、全学年の巻末の内容一覧では、教材ごとにそれぞれの関わりが示されている。 〔例〕 2年 (P184)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
233 日科	<p>●着眼点(1)について よりよくいきようとする事についての見方・考え方を深める学習のための教材を選定し、考え、議論することができるよう工夫されている。巻末「ウェルビーイングカード」では、「よりよくあるため」の視点を示し、多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P12～15、巻末)</p> <p>●着眼点(2)について 漫画教材等を設定することで、課題についての話し合いをしやすくしたり、各視点に関わって考えを広げたりできるよう工夫されている。また、教材末の「考えよう」「深めよう」では、生徒の思考を揺さぶる問いかけになっており、話し合いが活発になるよう工夫されている。 〔例〕 2年 (P84～87、 P107～110)</p> <p>●着眼点(3)について ・教材に関する画像や参考となる外部ページを閲覧できるよう二次元コードが配置されている。 ・情報モラルに関しては、現代的な課題として向き合い、心を育む教材を各学年に配置し、ネットトラブルからどう身を守るか、また、ネットの情報が正しいかどうか見極めるにはどうすればよいかなど、自分ごととして考えさせることができるよう工夫されている。 〔例〕 3年 (P84～87)</p>	<p>●着眼点(4)について 各学年の冒頭に、ガイダンス教材を配置し、道徳の授業の進め方、振り返り、小教材による演習を設定しており、学習の見通しをもてるように工夫されている。 〔例〕 2年 (P4～6)</p> <p>●着眼点(5)について 家庭生活における日常の場面、地域の人々との関わる教材を取り入れ、各学年の巻末の「わたしたちの郷土」では、伝統文化を掲載し、家庭や地域社会との連携が図れるよう工夫されている。 〔例〕 3年 (P114～117、巻末)</p> <p>●着眼点(6)について 学校生活における日常の場面を取り入れ、生徒が現在の生活を見つめたり、これからの生活を考えたりすることができるように工夫されている。 〔例〕 2年 (P51～56)</p> <p>●着眼点(7)について 国語、社会、理科、家庭、音楽などを教材に取り入れ、他教科等と関連を図れるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P88～91)</p>

2 使用上の便宜

項目	発行者の 番号・略称	総ページ	(1)内容別配当の分量					(2)教材・資料等の分量					
			A 主として自 身に 関すること	B に主として 人との 関わり	C の主として 集団や 社会と 関すること	D に主として 生命や 自然、 崇高な ものとの 関わり	その他	教材 数	書き 込み 欄の 数	コ ラ ム の 数	の 体 験 的 な 学 習 へ の 手 立 て	二 次 元 コ ー ド の 数	三 重 県 に 関 わ る 記 述 等
2 東書	1年	198	38	35	65	37	23	35	90	14	2	45	-
	2年	206	27	38	77	40	24	35	68	10	3	45	-
	3年	206	27	33	91	34	21	35	81	11	2	45	-
17 教出	1年	200	46	34	69	37	14	35	43	4	2	54	-
	2年	192	39	38	72	27	16	35	31	4	1	57	-
	3年	192	29	36	72	41	14	35	23	5	1	52	-
38 光村	1年	184	30	30	59	38	27	35	52	3	3	32	-
	2年	192	30	40	59	42	21	35	60	3	2	28	-
	3年	192	44	32	56	36	24	34	59	4	1	28	○
116 日文	1年	176	34	34	60	37	11	35	42	14	2	47	-
	2年	184	30	36	65	42	11	35	44	12	1	45	○
	3年	192	32	34	76	39	11	35	42	13	1	46	-
224 学研	1年	188	38	34	62	30	24	35	61	18	0	14	-
	2年	192	40	30	62	36	24	35	64	17	1	13	-
	3年	196	40	36	62	34	24	35	53	16	1	12	-
232 あか図	1年	184	35	34	63	38	14	35	13	10	1	15	○
	2年	184	38	31	63	37	15	35	13	9	0	16	-
	3年	184	37	33	63	36	15	35	12	8	0	18	-
233 日科	1年	156	33	31	53	25	14	34	30	0	0	18	○
	2年	160	31	25	65	24	15	34	35	0	0	20	-
	3年	164	41	29	61	19	14	34	45	0	0	12	-

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・A B判を採用し、環境に配慮した用紙、植物油インキが使用されている。 ・教科書本文にはユニバーサルデザインフォントが使用されている。また、カラーユニバーサルデザインの配慮もされている。 ・教材末の発問や登場人物の吹き出し内のセリフなど、生徒への問いかけ文は文節で改行し、読みやすさに配慮されている。
1 7 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・B 5判を採用し、環境に配慮した用紙、植物油インキが使用されている。 ・教科書本文には、ユニバーサルデザインフォントが使用されている。また、生徒の発達段階に応じた大きさの文字を使用し、読みやすい字間・行間のレイアウトが採用されている。 ・読みやすくまた、判別しやすい配色や表現方法を採用し、カラーユニバーサルデザインに配慮されている。
3 8 光村	<ul style="list-style-type: none"> ・B 5変形判を採用し、環境に配慮した用紙、植物油インキが使用されている。 ・教科書本文は、ユニバーサルデザインフォントを使用している。また、色覚特性や特別支援教育の専門家が校閲し、学習に支障をきたすことのないよう工夫されている。 ・教材末の発問や登場人物のセリフは、言葉のまとまりを捉えやすくするため、文章の改行位置が配慮されている。
1 1 6 日文	<ul style="list-style-type: none"> ・B 5判を採用し、環境に配慮した用紙、植物油インキが使用されている。 ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインへの配慮も行われている。 ・本文の割り付けは読みやすいまとまりで折り返すように配慮されており、中学校で学習する漢字には、ふりがながつけられている。
2 2 4 学研	<ul style="list-style-type: none"> ・A B判を採用し、環境に配慮した用紙、植物油インキが使用されている。 ・ユニバーサルデザインフォント、カラーユニバーサルデザインが採用されている。 ・すべての教材が見開きから始まるよう工夫されている。
2 3 2 あか図	<ul style="list-style-type: none"> ・B 5判を採用し、環境に配慮した用紙、植物油インキが使用されている。 ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、書体や文字の大きさが配慮されている。 ・教材の冒頭のマークは、マークの形状やデザインの違いから必要な情報が読み取れるよう配慮されている。
2 3 3 日科	<ul style="list-style-type: none"> ・A B判を採用し、環境に配慮した用紙、植物性インキが使用されている。 ・本文の主体文字にはユニバーサルデザインフォントが使用されている。カラーユニバーサルデザインの観点から、全ページにわたり配色とデザインに配慮されている。 ・1教材あたり4ページを基準とすることで、話し合ったり、考え合ったりする時間が確保できるよう工夫されている。

3 その他

発行者の 番号・略称	今日的な課題への配慮や工夫
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題のユニットを、指導に最適な時期を考量し、各学年同じ時期に指導できるよう配列されている。 ・読み物教材やイラストや漫画の教材、いじめについて詳述したコラムが配置されている。
1 7 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ予防の観点から年度の早い時期にいじめ予防に関する教材が配置されている。 ・ユニット学習によって、人間理解を深め、豊かな人間づくりについて実践的に考えられるよう工夫されている。
3 8 光村	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを許さない心について考えるユニットが組み込まれている。 ・「まなびプラス」では、別の角度からいじめについて考えを深めることができるよう工夫されている。
1 1 6 日文	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめについて自分たちの問題として主体的に考え、議論できるよう、多様な教材やコラムをユニット化されている。 ・コラムは特別活動等と関連して、いじめ防止に関わる知識とスキルに関する2種類で構成され、いじめ防止について学習できるよう工夫されている。
2 2 4 学研	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのちの教育」を土台とし、「多様性」と「いじめ防止」の教材を連携させることで、年間を通していじめのない社会づくりに取り組めるよう工夫されている。 ・いじめに関して多面的、多角的に学習できるように、ユニット教材として配列されている。
2 3 2 あか図	<ul style="list-style-type: none"> ・重要課題として、いじめ防止と生命尊重が設定されている。 ・いじめを許さない心を育む教材をユニット化し、各学年の5、6月頃に重点的に学習できるよう配置されている。
2 3 3 日科	<ul style="list-style-type: none"> ・「公正、公平、社会正義」の内容項目において、いじめにつながる問題に正対して考えられる教材を選定されている。 ・生徒の学校生活の中で陥りやすい場面を積極的に取り上げ、常に気をつけなければいけないこととして認識できるよう工夫されている。